

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成25年4月18日 (2013.4.18)

【公表番号】特表2011-504455(P2011-504455A)

【公表日】平成23年2月10日 (2011.2.10)

【年通号数】公開・登録公報2011-006

【出願番号】特願2009-528313(P2009-528313)

【国際特許分類】

A 6 1 K 9/16 (2006.01)

A 6 1 K 47/38 (2006.01)

A 6 1 K 47/32 (2006.01)

A 6 1 K 47/36 (2006.01)

A 6 1 K 47/44 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/04 (2006.01)

A 6 1 K 31/485 (2006.01)

A 6 1 K 47/34 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 9/16

A 6 1 K 47/38

A 6 1 K 47/32

A 6 1 K 47/36

A 6 1 K 47/44

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 25/04

A 6 1 K 31/485

A 6 1 K 47/34

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年2月27日 (2013.2.27)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 2 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 2 8】

少なくとも一つの A P I が必要である一方、複数の A P I 使用も考慮される。本発明に基づく「A P I」または医薬品有効成分には、粒子と成り得、誤用されやすいが、その他の点では本発明で有用な物質が含まれる。そのような有効成分には、全身投与が可能な薬剤成分、ビタミン、ミネラル、栄養補助食品、さらに全身投与不能の薬剤が含まれる。本発明ではこのような物質の組合せも考慮される。薬剤成分としては以下が挙げられる（これらに限定されるものではないが）：抗酸剤、鎮痛剤、覚醒剤、睡眠補助薬、睡眠薬、解熱剤、抗菌剤、抗不安薬、下剤、抗うつ薬、抗利尿薬、整腸剤、抗痙攣剤、抗炎症薬、抗生剤、利尿薬、食欲抑制薬、抗ヒスタミン薬、抗喘息薬、抗利尿薬、整腸剤、片頭痛薬、抗痙攣薬、鎮静剤、抗過活動薬、降圧薬、精神安定剤、充血除去剤、免疫抑制剤、抗癌剤、抗ウイルス薬、抗寄生虫薬、抗真菌薬、制吐薬、抗うつ薬、抗癲癇薬、局所麻酔薬、血管作用薬、抗喘息薬、骨格筋弛緩薬、パーキンソン薬、抗精神病薬、造血成長因子、抗高脂血症薬、抗凝血薬、線維素溶解薬、抗血栓剤、ホルモン、治療用タンパク質およびペプチド、抗不整脈薬、抗狭心症薬、ベータ遮断薬、およびこれらの組合せ。同じく本発明に

基づいてAPIとして含まれるのが米国特許第5、234,967号明細書Mantell
leの18列から21列に記載された薬剤および医薬品有効成分である。Mantell
leの文章は本明細書の参考文献を参照されたい。本発明に基づく一実施形態において、A
PIは誤用される可能性が高い薬剤であるのが好ましい。本発明の好ましい別の実施形態
において、APIはニュージャージー州Whitehouse StationのM
erck&Co., Inc.出版のMerck Index第13版(著作権2001)
ページTHER-2およびページTHER-3に記載された麻薬性若しくは非麻薬性鎮痛
剤である。当該麻薬性鎮痛剤としては以下が挙げられる(がこれらに限定されるものでは
ない): 鎮痛剤、疼痛緩和剤、オキシコドン、コデイン、ヒドロコドン、モルヒネ、ヒド
ロモルフォン、オキシモルフォン、メタドン、プロボキシフェン、メペリジン、フェンタ
ニル、ブプレノルフィン、ブトルファノール、デゾシン、酢酸レボメタジル、レボルファ
ノール、ナルブフィン、ペンタゾシン、レミフェンタニル、スフェンタニル、トラマド
ルなどのようなオピオイド。アンフェタミン、メタンフェタミン、デキサンフェタミン、
メチルフェニデート、デクスメチルフェニデート、ペモリンなどの覚醒剤。アモバルビタ
ール、アプロバルビタール、ブタバルビタール、メホバルビタール、フェノバルビタール
、セコバルビタール(以上バルビツール酸塩)、アルプラゾラム、クロナゼパム、ジアゼ
パム、エスタゾラム、フルラゾラム、ハラゼパム、ロラゼパム、ミダゾラム、クアゼパム
、テマゼパム、トリアゾラム、プラゼパム、オキサゼパムなどの鎮静剤および睡眠薬。そ
の他、モダフィニル、アルモダフィニルなど。特に好ましいAPIはオキシコドンである
。